

天竜川ダム再編事業

天竜川の課題

治水の課題

天竜川は「あばれ天竜」とも呼ばれ、沿川では古くから大きな洪水被害をたびたび受けており、近年も河岸の欠壊や家屋の浸水などが生じています。

沿川に広がる扇状地は豊富な地下水や交通の利便性に恵まれ、ものづくりの地域として発展しており、洪水被害の危険性を小さくすることが求められています。

土砂移動の課題

天竜川の流域は中央・南の両アルプスに挟まれた急峻な地形と、中央構造線などが縦断する脆弱な地質により、大量の土砂が流出しますが、その大部分がダム貯水池に堆積するため、山から海までの土砂移動が妨げられています。

中田島砂丘やアカウミガメの産卵で知られる遠州灘海岸は侵食が進んでおり、天竜川からの土砂供給の増加が求められています。

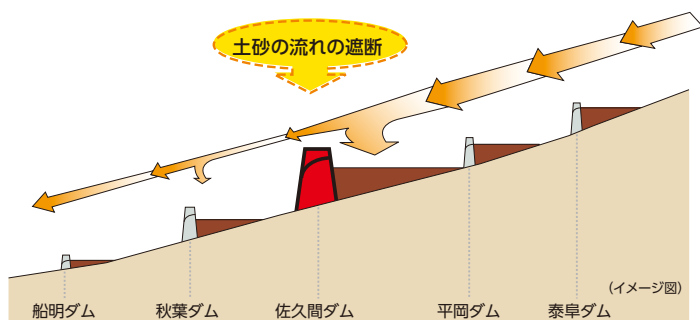
天竜川の洪水と流域における浸水被害



昭和57年8月洪水(浜松市鹿島橋付近)

平成10年9月洪水(浜松市東区)

土砂の流れの遮断



天竜川河口部では、長期的な海岸侵食が進行



佐久間ダムの概要

佐久間ダムは天竜川河口から約70km上流に位置する昭和31年(1956)完成の発電専用ダムです。

佐久間ダムの集水面積は天竜川流域全体の約75%を占め、洪水調節容量を新たに確保することは天竜川中下流部の治水対策の要となります。

佐久間ダムの諸元

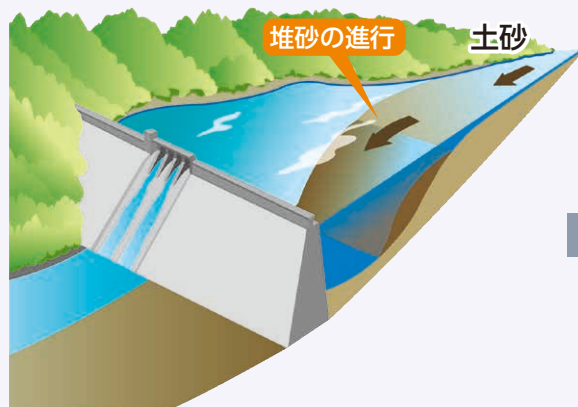
形式	重力式コンクリートダム
堤高	155.5m
堤長	293.5m
集水面積	3,827km ²
利水容量	20,544万m ³
総貯水容量	32,685万m ³



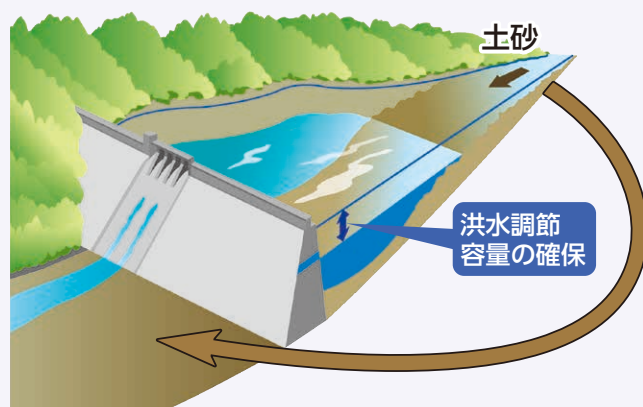
天竜川ダム再編事業の概要

天竜川中下流部の洪水防御をするため、既設の利水専用ダムである佐久間ダムを有効活用して新たに洪水調節機能を確認し、また、佐久間ダムにおいて恒久的な堆砂対策を実施することにより、土砂移動の連続性を確保して貯水池の保全を図るとともに、海岸侵食の抑制等への寄与を目指すものです。

現 状



天竜川ダム再編事業



土砂をダムの下流へ還元 恒久堆砂対策施設の整備

洪水調節

上流域の大雨による洪水をダムへ貯めることにより、下流河川を流れる洪水量を減らして、河川からの溢れや、堤防が壊れることを防ぐ。

恒久的な堆砂対策

平常時にダム発生土をダム下流側のストックヤードに運搬・集積して、洪水時にダム放流水を利用し、河川へ還元することにより、遠州灘海岸の侵食を抑制する。

恒久堆砂対策のイメージ

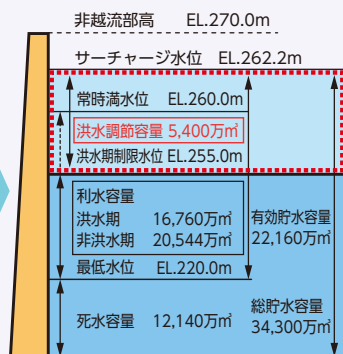
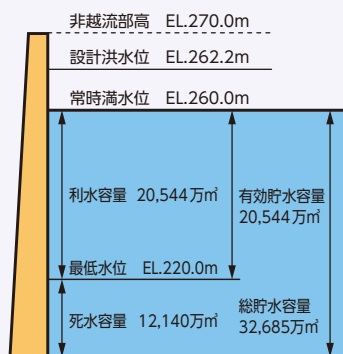
現 状

洪水をほぼ貯めることなく下流河川へ放流



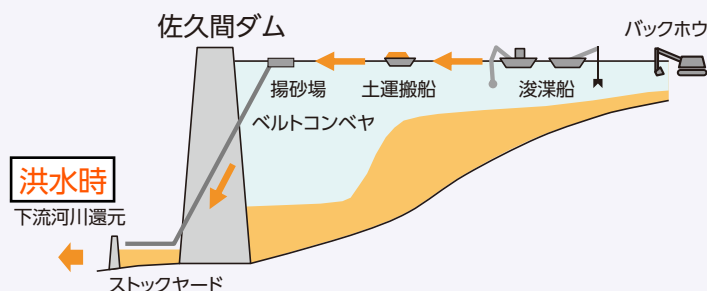
天竜川ダム再編事業後

洪水を貯留し下流河川への放流量を低減



貯水池容量配分図

平常時



洪水時

